

2021年度第2回プロジェクト評価委員会 議事抄録

日時：2021年9月6日（月）9:00～12:03

場所：ZoomによるWeb会議

出席者（敬称略）：

委員：麻生、大西、川端、小杉、齋藤(委員長)、清水、戸谷、満田、山崎（副委員長）、
米倉、渡邊

オブザーバ：倉崎（台長特別補佐）、堀（研究評価支援室）

※注意：評価作業部会構成員の出席について

プロジェクト評価の進め方に関する方針が固まり、プロジェクト評価委員会（以下、本委員会）委員以外の評価作業部会構成員（幹事会議構成員のうち、教授又は特任教授）は直接評価に携わらないことが決定した。そこで、齋藤委員長から幹事会議構成員へ「本委員会は当面、プロジェクト評価委員および外部評価コーディネータのみの出席とする」旨、問合せたところ異論が出なかった。このため、今後は必要に応じて招集する事とし、今回は招集しなかった。

【議 題】

1. 前回議事抄録の確認
2. プロジェクト評価の考え方と進め方の確認
3. 2021年度プロジェクト評価の対象について
4. その他

【配付資料】

- | | |
|-------|---|
| 資料1 | 2021年度第1回プロジェクト評価委員会 議事抄録 |
| 資料2 | プロジェクト評価の考え方、プロジェクト評価委員会の役割とプロジェクト評価の進め方 |
| 資料3 | プロジェクト評価におけるステークホルダ関係図 |
| 資料4 | プロジェクト評価のフロー |
| 資料5 | 評価対象候補プロジェクトからの原案および執行部意見 |
| 参考資料1 | 評価対象候補プロジェクトの Scientific Goals and Missions |
| 参考資料2 | 海外機関の外部評価委員候補者の経歴 |
| 参考資料3 | すばる2の主たる科学目標 |
| 参考資料4 | 国立天文台プロジェクト評価委員会規則等の一部改正について |

【議 事】

1. 前回議事抄録の確認

前回会合の議事抄録（資料1）について、委員間のメール審議で確認された後、国立天文台ホームページ¹で公開されている旨、齋藤委員長より報告があった。

¹ <https://www.nao.ac.jp/recommend/project-review-committee/>

2. プロジェクト評価の考え方と進め方の確認

齋藤委員長より、前回会合後に改訂を行い承認済の、プロジェクト評価の考え方と進め方(案)について更なる修正(資料2)の提案、ステークホルダ関係図(資料3)の確認、これらをもとに新たに改訂したプロジェクト評価のフロー案(資料4)の説明があった。この3つがプロジェクト評価を行うベースラインとなる。

本日の議論を反映させて改訂した資料2, 5および資料4を後日照会する。本日の議事抄録の照会までに意見がなければ、この内容で進める。

議論で出た主な意見・確認事項(概要):

○プロジェクト評価の考え方と進め方(資料2)

1) 評価対象に連携事業等を追加(P2. 2)

- ・「連携事業等の、時限付きで実施する共同利用や施設運用事業も、同様にプロジェクトに準ずる形で評価を実施することができる。」を加筆する。
- ・「本委員会や外部評価委員会の負荷が増えないか?」「連携事業以外についても本委員会で評価することにならないか?」との意見があった。自然科学研究機構や国立天文台の運営規則²を引用して評価対象を限定する案も出たが、「評価を実施する“ことができる”。」として、本委員会で評価することもあるとの意味合いを持たせた。
- ・大学連携事業は大学関係者が多く参加するため、幹事会で評価を議論するよりも(コミュニティからの委員を過半数含む)本委員会で審議するのがよい。

2) プロジェクト評価委員会と外部評価委員会の作業確認(P4. 6)

- ・(1)(ア)～(キ)の重要事項7項目を本委員会が審議の上決定する。これを踏まえ、外部評価委員会が「評価計画書」を作成する。
- ・(2)②「プロジェクト等が提案した評価計画書原案とそれに対するプロジェクト評価委員会の意見」とは、プロジェクトが原案を作成し、本委員会が決定する(エ)～(キ)のことである。資料5が「プロジェクトからの原案」に相当する。

○プロジェクト評価のフロー案(資料4)

- ・評価実施前:外部評価委員会が作成した「評価計画書」は、重要事項(7項目)が反映されているか、本委員会による確認やフィードバックも必要ではないか?
→本委員会の台外委員(1名以上)が外部評価委員会に加わるので、本委員会の議論等を「評価計画書」に反映していただけるだろう。
- ・評価実施後:外部評価委員会が作成した「評価報告書」(案)に対し、本委員会が提言をまとめる。提言を受けて外部評価委員会が改訂した「評価報告書」(確定版)に、本委員会が「意見書」を添えて台長へ答申する。意見書の役割は何か?
→外部評価の結果に基づき、本委員会から国立天文台への提言、異なる考え方、複数のプロジェクトに共通の観点からの意見、運営の改善に役立つコメント等を伝える。

² 国立天文台組織運営規則 <https://www.nao.ac.jp/contents/about-naoj/organization/naoj1-1.pdf>

3. 2021年度プロジェクト評価の対象について

資料5および参考資料1～3に基づき、齋藤委員長より、今年度の評価対象であるハワイ観測所と先端技術センター（ATC）、議題2で承認された連携事業2つ（（大学間連携による）光赤外線天文学研究教育ネットワーク（OISTER）事業³及び国内VLBIネットワーク（JVN）事業⁴）から受理した、評価に関する4項目（評価項目案、評価の観点・評価基準、外部評価委員、外部評価コーディネータ：資料2の（エ）～（キ））原案及びこれに対する台長・執行部からの意見・質問と回答の紹介があり、これを踏まえて本委員会がこの4項目を決定する旨説明があった。外国機関の委員候補者については委員からも補足説明があった。

4つの評価対象について各4項目原案が審議され、改訂箇所と評価対象へ確認が必要な箇所を確認の上、承認された。ハワイ観測所の外部評価委員候補者1名については、すばる科学諮問委員会（SAC）からの推薦を待ち、後日メール審議を行う。

議論で出た主な意見・確認事項（概要）：

- ・外部評価委員および外部評価コーディネータの人選において、利益相反が議論された。評価対象プロジェクト（事業）についてある程度把握している方が望ましいので、関与の度合いを客観的に判断できるよう、国立天文台には利益相反の基準を設定してほしい。

4. その他

齋藤委員長より、以下の報告及び説明があった。

○国立天文台プロジェクト評価委員会規則⁵：

本委員会と運営会議との関係を明確にする「第2条第3項（委員会は、運営会議から要請のあった専門的事項等の調査を行い、運営会議に報告する。）」が追記された（参考資料4）。前回会合で規則改訂の必要性が議論されたが、これについては今年度プロジェクト評価を実施後に再度議論したい。

○議事抄録：

今後も照会後に公開する。個人情報等の機微な事項は本委員会限りとしたい。

○今後の予定：

- ・事務局にて、外部評価委員候補者へ委員就任を打診する。外部評価委員が確定したら「評価計画書」の作成を依頼し、完成次第、本委員会へ配布する（10月目途）。
- ・プロジェクト評価は年度内の実施を予定。開催形態（オンライン、現地で対面、等）は外部評価委員会にご議論いただく。
- ・「評価報告書」は、次年度完成となる可能性はあるが、本委員会にて今期委員の任期中（令和4年6月30日まで）に内容を議論し、「意見書」を付与する評価のサイクルを回したい。

以上

³ 光赤外線天文学研究教育ネットワーク事業 <https://www.nao.ac.jp/recommend/mission/oister.html>

⁴ 国内VLBIネットワーク事業 <https://www.nao.ac.jp/recommend/mission/jvn.html>

⁵ 国立天文台プロジェクト評価委員会規則 <https://www.nao.ac.jp/about-naoj/organization/regulations.html>